

# 藤原三代

## その栄華の 跡を訪ねて

北方の王者が夢見た  
極楽浄土の世界とは？



金色堂

中尊寺にある芭蕉像  
beibaoke / Shutterstock.com



中尊寺本堂  
beibaoke / Shutterstock.com

夏草や兵どもが夢の跡

あまりにも有名なこの句は、松尾芭蕉が奥州平泉に立ち寄った際に詠んだものです。芭蕉は『奥の細道』紀行の途中この地を訪れ、二つの俳句を残しています。そのひとつが冒頭の句というわけです。

江戸を出立しておよそ一ヶ月半のち。平泉を訪れた芭蕉は藤原三代の遺構高館に立ち、夏草が生い茂る風景を眺めながら、栄華を極めた奥州藤原氏の儚さを思い、この句を詠んだといわれています。

今回は芭蕉よろしく、筆者もまた奥州平泉を歩いてみました。

JR東北新幹線で盛岡駅から一ノ関駅まで約40分、JR東北本線に乗り換えて10分ほどで平泉駅に到着します。ここから中尊寺までは巡回バスが出ているのですが、今回は時間の関係でタクシーを利用して向かいました。

北上川に沿って国道を北上すること15分、うっそうと茂る杜の向こうに中尊寺の瓦屋根が見えてきました。筆者が平泉を訪れた理由はふたつ。なぜ都から遠く離れた東北の地に、



藤原氏は巨大王国を築くことができたのか？そして彼らが目指したものは何だったのか？

平泉の地を散策しながら、その答えを探してみたいと思います。

## 初代・藤原清衡の時代 ～奥州に独立王国を建設する～

中尊寺の境内を散策する前に、まず「奥州藤原氏」について簡単に紹介したいと思います。

平泉は岩手県の西北部に位置します。11世紀末から12世紀にかけての約100年間、藤原清衡を始祖とする奥州藤原氏は、この地を拠点に一大王国を築きました。

もともと奥州（現在の東北地方）は、蝦夷が支配する土地でした。蝦夷とは東北・北海道地方に先住していた人々のこと。飛鳥時代以降、中央集権国家を目指す大和朝廷との間にたびたび紛争が起きていました。そしてついに11世紀に起きた前九年の役・後三年の役によって、朝廷側の武將・藤原清衡が奥州の支配権を手に入れたのです。

その後、彼は大和朝廷からも離れ、この地に独立国家の建設を目指しま

す。その中心が平泉だったのです。

駐車場でタクシーを降り、しばらく歩くと中尊寺の山門に着きます。それをくぐって本堂に上がり、仏像に手を合わせました。それからさらに歩くと金色堂が見えてきます。

金色堂は中尊寺創建当時の姿をいまに伝える唯一の建造物で、12世紀初頭に藤原清衡によって建立されました。内外に金箔を押された「皆金色」といわれる内装は、この世のものとは思えない黄金色に光り輝いています。

本堂の解説書によると、ここは地勢的に恵まれており、それゆえ清衡はまたたく間に強大な権力を持つようになったのだとか。その理由は次の4つ。

- 1・砂金の一大産地であった。
- 2・北方に住む蝦夷の商人たちとの貿易を独占した。
- 3・優れた馬の産地であった。
- 4・平安京から遠く離れており、中央政府の勢力が及ばない。

さらに解説は続きます。奥州での実権を手に入れた藤原清衡が、まず一番に望んだことは「平和な世の中」をつくることでした。

たび重なる戦

乱で命を落とした人々の魂を、敵味方の区別なく供養するため、清衡は中尊寺を建立したのです。現存している『中尊寺建立供養願文』は、平和な国をつくることを誓った誓約書。平和な世の中を目指して国造りをした例は、世界の歴史を見渡しても極めて珍しいケースだといわれます。

清衡は金色堂、二階大堂をはじめ、様々な堂塔を建て、池を掘って庭園を造営し、そして20年の歳月をかけてついに中尊寺を完成させたのです。これは彼が思い描いたこの世の「極楽浄土」の姿でした。

## 二代・藤原基衡の時代 ～花開く平泉の仏教文化～

清衡の死後、跡を継いだのは基衡でした。

彼もまた浄土思想を唱え、清衡の遺志を受け継いで、仏教を中心とし

### ～藤原三代の年表～

|       |                                            |
|-------|--------------------------------------------|
| 1051年 | 前九年の役がはじまる。                                |
| 1087年 | 後三年の役が終わり、藤原清衡が奥六郡を所有する。                   |
| 1105年 | 清衡、中尊寺の建設をはじめ。                             |
| 1128年 | 清衡死去。基衡が跡を継ぐ。                              |
| 1150年 | 毛越寺・観自在王院の造営がはじまる。                         |
| 1157年 | 基衡死去。秀衡が跡を継ぐ。                              |
| 1174年 | この頃、鞍馬山を出奔した義経が平泉へ。                        |
| 1180年 | 源頼朝、伊豆で挙兵する。                               |
| 1181年 | 秀衡が陸奥守に任命される。                              |
| 1186年 | 義経、平泉に逃げ延びる。                               |
| 1187年 | 秀衡死去。泰衡が跡を継ぐ。                              |
| 1189年 | 4月、義経自刃。<br>9月、泰衡、家臣の裏切りにより死去。<br>藤原氏滅亡する。 |

た国づくりを発展させます。毛越寺、円隆寺などは基衡の時代に建立されたものです。

いまでこそ平泉町は人口8,000人ほどの小さな地方都市ですが、彼の時代には人口10万人を擁し、京都につぐ日本第2位の都市であったといわれています。

## 三代・藤原秀衡の時代 ～北方の王者として君臨～

基衡の跡を継いだのは藤原秀衡でした。彼の時代に都市国家「平泉」が完成したといわれています。

秀衡は優れた経済力と政治的才能によって、朝廷より「鎮守府將軍」という役職に任命され、その後「陸



毛越寺 浄土庭園

奥守」にも任命されます。これによつて藤原秀衡は、名実ともに東北の支配者となったのです。

若いころ源義経は、その一時期を秀衡のいる平泉で過ごしました。やがてこのことが悲劇の伏線となるのですが、それは後ほど。

ところで、平泉には大きく5カ所の観光スポットがあります。それらを順にご紹介していきましょう。

#### ・中尊寺

清衡が1105年から建立に着手し、1124年に金色堂が完成しました。中尊寺の境内には、最盛期には40にも及ぶお堂や塔があったといわれています。

#### ・毛越寺<sup>もうつうじ</sup>

火災により現在に残っていませんが、美しい浄土庭園を散策することができます。

#### ・無量光院跡

宇治平等院を模して造られましたが、建物は消失し礎石が残っているのみ。

#### ・観自在王院跡

2つの阿弥陀堂がありました。1573年に消失し、現在は舞鶴が池が残っているのみ。

#### ・柳之御所遺跡

「吾妻鏡」に記されている「政庁・平泉館」であった可能性が高いといわれています。現在も発掘調査が行われています。

#### 四代・藤原泰衡

##### ↳ 藤原氏の滅亡↳

1186年冬、兄頼朝に追われた源義経が平泉に落ち延びてきます。秀衡は義経を温かく迎え入れますが、それから間もなく病で亡くなってしまう。

秀衡の跡を継いだ四代・泰衡は、頼朝からの圧力に屈し、義経を攻撃して自刃させます。しかしその後、泰衡は頼朝軍に攻撃されて秋田県まで逃げ延びますが、家臣の裏切りによつて殺害されました。ここに四代続いた奥州藤原氏は滅亡したのでした。

#### 五月雨の降り残してや光堂

この地で芭蕉が詠んだもうひとつの句です。

雨に打たれてすべてのものが朽ち

果てていくのに、金色堂だけはいまも輝き続けている…そんな意味でしょうか。

「夏草や」で人の世の儚さと虚しさを、この句では永遠に変わることのない極楽浄土の世界があることを、芭蕉はふたつの俳句にそんな思いを込めたのかもしれない。

夕暮れ迫る平泉の街。筆者は中尊寺を出て、毛越寺の庭園などを散策してから、藤原三代の夢の轍をあとにしました。

(了)



柳之御所遺跡